

## 学生と社会の男女平等意識－2018 年の調査から

## Gender equality among students and society-from a 2018 survey

南 泰代<sup>+</sup>

Yasuyo Minami

## 1. はじめに

## (1) 研究の目的と背景

日本国憲法第 14 条に、「すべて国民は、法の下に平等であつて人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」とうたわれているが、個人の尊重や性別の平等は進んでいない。

日本では、2001 年（平成十一年六月二十三日）「男女共同参画社会基本法」法律第七十八号が制定された。「我が国においては、日本国憲法に個人の尊重と法の下での平等がうたわれ、男女平等の実現に向けた様々な取組が、国際社会における取組とも連動しつつ、着実に進められてきたが、なお一層の努力が必要とされている。一方、少子高齢化の進展、国内経済活動の成熟化等我が国の社会経済情勢の急速な変化に対応していく上で、男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現は、緊要な課題となっている。このような状況にかんがみ、男女共同参画社会の実現を二十一世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置付け、社会のあらゆる分野において、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の推進を図っていくことが重要である。ここに、男女共同参画社会の形成についての基本理念を明らかにしてその方向を示し、将来に向かって国、地方公共団体及び国民の男女共同参画社会の形成に関する取組を総合的かつ計画的に推進するため、この法律を制定する」とある。第一条に、「この法律は、男女の人権が尊重され、かつ、社会経済情勢の変化に対応できる豊かで活力ある社会を実現することの緊要性にかんがみ、男女共同参画社会の形成に関し、基本理念

を定め、並びに国、地方公共団体及び国民の責務を明らかにするとともに、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進することを目的とする」とある。

日本は 2018 年においても男女平等のランクで 149 ヶ国中 105 位である（世界経済フォーラム（WEF）調べ）。日本よりも女を軽視する国は、イエメン、パキスタン、チャド、シリア、モーリタリア、コートジボワール、イラン、モロッコ、マリ、サウジアラビア等である。男女平等に近い国は、アイスランド、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、フィリピン、アイルランド、ニュージーランド、デンマーク、スイス、ニカラグア等といわれている。筆者は長年、男女共同参画社会の実現に向けて、県や市の自治体の審議会委員、フォーラム実行委員を務めてきたが、社会での意識改革は進んでいないことを実感している。学生の意識と社会の意識の相違を認識することが、学生が社会に出てからの戸惑いや不満を最小にできるものとする。また、男女平等意識が少しでも推進されることを望むものである。

## (2) 先行研究

椿氏は、「短大生と大学生との意識の調査をとおして、世の中は男女平等に向かい、多様な性も容認していこうという時代がやってきたのだが、伝統的な性別志向を持つ学生、特に女子学生の行動は、古い世代から受け継がれた習慣や慣例を急には変えることができない現象が捉えられるのも事実である」と述べている<sup>1</sup>。

森 裕子・石丸 径一郎氏は、「女性としての展望性、特に婚姻観において伝統的な価値観をもっていることが、男性

<sup>+</sup> 花園大学, Hanazono University

の前で女性役割の中でもポジティブなものとして評価される行動をするように影響を及ぼしている可能性が示唆された」と述べている<sup>2</sup>。

男女平等について、同じ項目で、学生と社会との間で調査することが必要である。どの分野で進み、進んでいないかを確認し、以後の教育に生かすべきであると考え。

## 2. 研究方法

(1) 2018年4月～2019年3月の東海地域の学生、男33人、女91人の124人に対してアンケート調査を行った。男女平等に男女の比較は問題があるが、男女の意識の差をみるために男女の割合で比較した。質問紙で男女平等について〇と記述で調査した。授業後、グループ討議を行った。

(2) 2018年11月の東海地域のフェスティバルに参加した人々に、学生と同じアンケート調査を、筆者が1人1人にお願した。105人の協力を得た。

(3) 学生の意識と社会での意識を比較する。

## 3. 学生の意識調査の結果

### (1) 男女平等について

①「学校(教育)では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は75.0%の93人、「男が優先」は4.8%の6人、「女が優先」は12.0%の15人であった。「平等」での男は69.6%、女は76.9%であった。学校での平等の意識は7割強と高く、特に女の方が高かった。

自由記述では、「学校が平等のイメージが強い」「授業は平等」「体育の授業には差がある」「男性の先生は女に甘く、女性の先生は男に甘い」「力仕事を男子に頼む先生が多い」とあった。

②「家庭では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は67.7%の84人、「男が優先」は17.7%の22人、「女が優先」は7.2%の9人であった。「平等」での男は78.7%、女は63.7%であった。家庭での平等の意識は7割弱と高く、特に男の方が8割弱と高かった。

自由記述では、「長男の弟が優先」「家事は女だ」「書類に父の名を書く」「亭主関白がまだ多い」「亭主関白という言葉どおり仕事は父中心」「男は外、女は内のイメージ強い」「家事は女があたりまえとされている」とあった。

③「社会では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は41.1%の51人、「男が優先」は33.8%の42人、「女が優先」は14.5%の18人であった。「平等」での男は45.4%、女は39.5%であった。社会での平等の意識は4割で、男の方が4割強と高かった。しかし、「男が優先」の意識は男は33.3%、女は34.0%と男女で3割強であった。

自由記述では、「何をするのも男優先」「女は職に就きにくい」「男性専用車両がない」「男の方が夜の仕事が多い」「部長は男が多い」「育休明けに女は仕事に戻れない」「女は出世できない」とあった。

④「入試では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は71.7%の89人、「男が優先」は21.7%の27人、「女が優先」は2.4%の3人であった。「平等」での男は69.6%、女は72.5%であった。入試での平等の意識は7割で、特に女の方が高かった。

自由記述では、「医学部は男子優先」「男の方を求める傾向が強い」「女性の専門学校が多い」とあった。

⑤「職業では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は47.5%の59人、「男が優先」は33.8%の42人、「女が優先」は0.8%の1人であった。「それぞれ優先」が他の項目と比べて17.7%の22人と多かった。「平等」での男は48.4%、女は47.2%であった。職業での平等の意識は男女とも5割弱であった。しかし、「男が優先」は3割強で、特に女の方が38.4%と4割弱と高かった。

自由記述では、「男が優先に採用」「大工などは男、事務は女が多い」「力仕事は男だ」「男が優先で女が下の位置にいる」「選択の幅が男が広い」「保育園の男の先生に抵抗がある」「女性は舐められる」「女は職に就きにくい」「助産師は女だけだ」「性による不向きがある」とあった。

⑥「就職では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は52.4%の65人、「男が優先」は32.2%の40人、「女が優先」は0.08%の1人であった。「平等」での男は57.5%、女は50.5%であった。就職での平等の意識は5割強で、特に男の方が6割弱と高かった。しかし、「男が優先」は3割で、特に女の方が34.0%と3割強と高かった。

自由記述では、「女は子どもを産むためにずっと働けない

からはぶられる」「男しかつけない職業が多い」「事務などは女優先」「力仕事は男が優先」「女性が低くみられる」「女は職に就きにくい」「出産後サポートがない」とあった。

⑦「アルバイトでは男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は84.6%の105人、「男が優先」は2.4%の3人、「女が優先」は0.8%の1人、「それぞれ優先」は11.2%の14人であった。「平等」での男は87.8%、女は83.5%であった。アルバイトでの平等の意識は8割強と非常に高く、特に男は9割弱と高かった。

自由記述では、「力のある男子が重宝される」「男の方がバイト見つけやすい」「女は接客と言われる」「女は髪を束ねよと言われる」とあった。

⑧「収入では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は54.8%の68人、「男が優先」は39.5%の49人、「女が優先」は5.6%の7人であった。「平等」での男は54.5%、女は54.9%であった。収入での平等の意識は男女とも5割強と同じであった。しかし、「男が優先」での男は39.3%、女は39.5%と男女とも4割弱であった。

自由記述では、「男の方が収入が上がる」「男が優先、女が下の位置にいる」「男女別の収入の差」「妊娠で休むから少ない」「出世は男優先、収入も多い」「男の方が単価が高い」「男の方が残業長い」「役職男多い」「男は家族を養わなければならない」「男は家庭のために働くから高くて良い」「父が母より収入が少ないのは嫌がる」とあった。

⑨「政治では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は37.0%の46人、「男優先」は62.9%の78人、「女優先」は0%であった。「男優先」での男は54.5%、女は65.9%であった。政治での男優先の意識は6割と高く、特に女の方が6割強と高かった。

自由記述では、「女を受け入れる体制が整ってない」「議員は男が多い」「今の政権がまさに男優先だ」「女の総理大臣がない」「年配の男の議員が優先」「女の議員の意見は通らない」とあった。

⑩「経済では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は69.3%の86人、「男優先」は24.1%の30人、「女優先」は0.8%の1人であった。「平等」での男は72.7%、女は68.1%であった。経済での平等の意識は

7割弱と高く、男の方が7割と高かった。

自由記述では、「男の方が偉い人が多い」「男の方が収入が多い」「就職は男が優先だ」「社長は男が多い」「力を持つのは男」「女は進出しにくい分野だ」とあった。

⑪「デートでは男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は43.5%の54人、「男が優先」は6.4%の8人、「女が優先」は37.9%の47人、「それぞれ優先」は12.0%の15人であった。「平等」での男は36.3%、女は46.1%であった。デートでの平等の意識は4割で、特に女の方が4割強と高かった。しかし、「女優先」は4割弱で、男は45.4%と4割強と高かった。

自由記述では、「男がお金を払う」「荷物を男に持たせる」「割り勘は少ない」「女に喜んでもらおうとする場面が多い」「レーディファーストがあるから」「男が気を使う」「女が大切にされる」とあった。

表1 学生の男女平等意識

		男	女	計			男	女	計
		33	91	124			33	91	124
学校	平等	23	70	93	家庭	平等	26	58	84
	男優先	2	4	6		男優先	4	18	22
	女優先	6	9	15		女優先	2	7	9
社会	それぞれ優先	2	8	10		それぞれ優先	1	8	9
	平等	15	36	51	入試	平等	23	66	89
	男優先	11	31	42		男優先	8	19	27
職業	女優先	4	14	18		女優先	0	3	3
	それぞれ優先	3	10	13		それぞれ優先	2	3	5
	平等	16	43	59	就職	平等	19	46	65
アルバイト	男優先	7	35	42		男優先	9	31	40
	女優先	0	1	1		女優先	1	0	1
	それぞれ優先	10	12	22		それぞれ優先	4	14	18
政治	平等	29	76	105	収入	平等	18	50	68
	男優先	1	2	3		男優先	13	36	49
	女優先	0	1	1		女優先	2	5	7
デート	それぞれ優先	3	12	14		それぞれ優先	0	0	0
	平等	15	31	46	経済	平等	24	62	86
	男優先	18	60	78		男優先	7	23	30
結婚	女優先	0	0	0		女優先		1	1
	それぞれ優先	0	0	0		それぞれ優先	2	5	7
	平等	12	42	54	結婚	平等	28	66	94
デート	男優先	2	6	8		男優先	1	7	8
	女優先	15	32	47		女優先	2	11	13
	それぞれ優先	4	11	15		それぞれ優先	2	7	9

⑫「結婚では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は75.8%の94人、「男が優先」は6.4%の8人、「女が優先」は10.4%の13人、「それぞれ優

先」は7.2%の9人であった。「平等」での男は84.8%、女は72.5%であった。結婚での平等の意識は7割強と高く、特に男の方が8割強と高かった。

自由記述では、「女には適齢期がある」「姓が男側」「女が16歳、男が18歳はおかしい」「義父や義母の世話は女」「女は顔で評価」「子どもを産むのは女」「好きな人と結婚できる」「2人共平等であってほしい」「結婚観は女の方が真剣」「親が決めることはない」「女が祝福される」とあった。

## (2) グループ討議後の自由意見

グループ討議での自由意見では、「学校や教育では男女平等が多くなったが、社会ではまだまだ平等ではない」という意見が多かった。「女は出産や育児で仕事を辞めたり時間が制限されることが多い」「介護も女に負担が掛けられる場合が多い」という意見が多かった。しかし、「男性車両があれば痴漢者にされないから安心して乗車できるのになのはおかしい」「女のサービスデーがあるのに男にはないのもおかしい」という男の意見も多かった。その意見に対して女の方からも「男性車両や男のサービスデーがあるべきだ」という賛同意見が多かった。痴漢防止から生まれた女性車両であったが、簡単に男が痴漢者にされる社会になったという背景があるからだろう。

【グループで討議中の学生（撮影許可）】



## 4. Z市での一般アンケート調査の結果

①「学校（教育）では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は80.9%の85人、「男が優先」は14.2%の15人、「女が優先」は0.9%の1人であった。20～29歳では「平等」が100%と非常に高く、40～49歳で86.3%、30～39歳で85.7%と高かった。50～59歳が69.2%と一番低かった。20～49歳では8割以上が「平等」と認識していた。年齢が上がると低くなった。

自由記述では、「今は、女の子も大学に行ける」「奨学金制度もあり、みんなが行ける」とあった。大学に女だから、貧乏だから行けなかったという時代があったことが自由記述から理解できた。

②「家庭では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は42.8%の45人、「男が優先」は45.7%の48人、「女が優先」は6.6%の7人であった。家庭では「男が優先」が「平等」を超えていた。50～59歳では「男が優先」が53.8%、40～49歳では50%であった。40～59歳では5割以上が「男が優先」と認識していた。しかし、60～69歳では44%、70～79歳では44.4%と「男が優先」は下がり、70～79歳では「女が優先」が33.3%と急増する。年齢が上がると男は退職し、家での待遇も悪くなりやすい。逆に、年齢が上がると女の方が元気になることは平均寿命でも証明されている。

自由記述では、「定年後、家ではすることがなく、奥さんが中心だ」「家では奥さんの方が強い」と男の意見、「昔より男が優先で変わらない」「男尊女卑は少しは良くなった」と女の意見も多かった。

③「社会では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は25.7%の27人、「男が優先」は71.4%の75人、「女が優先」は0.9%の1人であった。社会では「男が優先」が7割以上と高く、60～69歳では80%と8割と非常に高かった。

自由記述では、「日本は男社会だ」「昔より男優先で変わらない」が多かった。「次の世でも男に生まれたい、女に生まれたくない」という男のグループの意見があった。

④「入試では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は53.3%の56人、「男が優先」は40.9%の43人、「女が優先」は0人であった。40～49歳では72.7%と高かった。入試では5割以上が平等と認識していた。

自由記述では、「医学部入試の不正がある」が多かった。

⑤「職業では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は31.4%の33人、「男が優先」は65.7%の69人、「女が優先」は0人であった。職業では「男が優先」が6割以上と高く、60～69歳では76.0%、70～79歳では77.7%と非常に高かった。戦後に生まれた年代では

女性の職業は限られてきたことがわかる。

自由記述では、「男しかできない職業が多い」「力仕事や夜勤はやはり男」「企業の役員も男が多い」が多かった。「今では、男が看護師や保育士に、女がトラックや電車の運転手になった」という意見もあった。

⑥「就職では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は 39.0%の 41 人、「男が優先」は 52.3%の 55 人、「女が優先」は 0.9%の 1 人であった。就職では「男が優先」が 5 割以上と高く、60～69 歳では 60.0%と 6 割と非常に高かった。

自由記述では、「率先力に男が欲しい」「男が優先で採用される」「女は結婚や出産で辞めるからいらぬ」「女は簡単に辞める」「企業説明会で男が欲しいと言われた」とあった。

⑦「アルバイトでは男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は 60.0%の 63 人、「男が優先」は 28.5%の 30 人、「女が優先」は 2.8%の 3 人であった。アルバイトでは「平等」が 6 割以上と高く、30～39 歳では 82.1%と 8 割強と非常に高かった。

自由記述では、「男とか女とか言われない」「トイレ掃除も男もする」とあった。

⑧「収入では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は 26.6%の 28 人、「男が優先」は 70.4%の 74 人、「女が優先」は 0.9%の 1 人であった。収入では「男が優先」が 7 割と高く、70～79 歳では 88.8%、20～29 歳では 87.5%と 9 割強と非常に高かった。

自由記述では、「男が稼ぎ、妻子を養う」「男が役職について収入上昇」「女は昇級を望まない」「女は残業しない」「女の収入は低い」とあった。

⑨「政治では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は 18.0%の 19 人、「男が優先」は 78.0%の 82 人、「女が優先」は 0 人であった。政治では「男が優先」が 8 割弱を占め、60～69 歳と 70～79 歳では 88.0%と 9 割弱と非常に高かった。

自由記述では、「父親の地盤で息子が引き継ぐことが多い」「力のある男を押す住民が多い」「女の議員は少ないし、力がない」とあった。

⑩「経済では男女が平等だと考えられますか」について質

問したところ、「平等」は 25.7%の 27 人、「男が優先」は 71.4%の 75 人、「女が優先」は 0 人であった。経済では「男が優先」が 7 割で、60～69 歳では 84.0%と 8 割強と高かった。

自由記述では、「経済界に女は少ない」「社長は男が多い」とあった。

表 2 社会の男女平等意識

	年代	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	計	男	女
学校	平等	8	28	22	13	25	9	105	24	81
	男優先	8	24	19	9	18	7	85	21	64
	女優先	0	3	3	1	7	1	15	3	12
	それぞれ優先	0	0	0	0	0	1	1	0	1
家庭	平等	5	11	10	4	13	2	45	11	34
	男優先	3	12	11	7	11	4	48	10	38
	女優先	0	3	0	0	1	3	7	3	4
	それぞれ優先	0	2	1	2	0	0	5	0	5
社会	平等	2	8	7	3	5	2	27	9	18
	男優先	6	19	15	8	20	7	75	14	61
	女優先	0	1	0	0	0	0	1	1	0
	それぞれ優先	0	0	0	2	0	0	2	0	2
入試	平等	5	19	16	5	7	4	56	15	41
	男優先	3	7	6	6	16	5	43	9	34
	女優先	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	それぞれ優先	0	2	0	2	2	0	6	0	6
職業	平等	4	10	9	3	5	2	33	11	22
	男優先	4	18	13	8	19	7	69	13	56
	女優先	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	それぞれ優先	0	0	0	2	1	0	3	0	3
就職	平等	3	13	9	5	8	3	41	11	30
	男優先	3	14	12	6	15	5	55	12	43
	女優先	0	0	0	0	1	0	1	0	1
	それぞれ優先	2	1	1	2	1	1	8	1	7
アルバイト	平等	5	23	14	7	10	4	63	14	49
	男優先	2	2	7	2	13	4	30	9	21
	女優先	0	2	0	0	1	0	3	0	3
	それぞれ優先	1	1	1	4	1	1	9	1	8
収入	平等	1	9	7	4	7	0	28	6	22
	男優先	7	19	15	7	18	8	74	18	56
	女優先	0	0	0	0	0	1	1	0	1
	それぞれ優先	0	0	0	2	0	0	2	0	2
政治	平等	1	9	4	2	2	1	19	8	11
	男優先	6	19	17	10	22	8	82	14	68
	女優先	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	それぞれ優先	1	0	1	1	1	0	4	2	2
経済	平等	2	11	7	2	4	1	27	11	16
	男優先	6	17	14	10	21	7	75	12	63
	女優先	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	それぞれ優先	0	0	1	1	0	1	3	1	2
デート	平等	3	13	17	6	15	4	58	11	47
	男優先	2	2	5	2	4	2	17	3	14
	女優先	3	11	0	3	4	2	23	10	13
	それぞれ優先	0	2	0	2	2	1	7	0	7
結婚	平等	5	16	11	6	17	4	59	14	45
	男優先	2	6	10	3	7	3	31	5	26
	女優先	0	3	1	2	1	1	8	4	4
	それぞれ優先	1	3	0	2	0	1	7	1	6

⑪「デートでは男女が平等だと考えられますか」について

質問したところ、「平等」は55.2%の58人、「男が優先」は16.1%の17人、「女が優先」は21.9%の23人であった。デートでは「平等」が5割強で、60～69歳では60.0%と6割と高かった。

自由記述では、「食事代は男が払ってくれる」とあった。  
 ⑫「結婚では男女が平等だと考えられますか」について質問したところ、「平等」は56.1%の59人、「男が優先」は29.5%の31人、「女が優先」は7.6%の8人であった。結婚では「平等」が5割強で、60～69歳では68.0%と7割弱と非常に高く、20～29歳でも62.5%と6割強と高かった。

自由記述では、「お互い協力」とあった。

## 5. 学生と社会の男女平等意識の相違

①学校（教育）では、学生と社会の両方で「平等」意識が非常に高い。「男が優先」意識では、学生より社会の方が高かった。

②家庭では、学生の方が「平等」意識が高く、社会の方では、「男が優先」意識が高いと相違が大きかった。

③社会では、学生の方では「平等」意識が「男が優先」意識より少し高かった。社会の方では、「男が優先」意識が非常に高く、相違が大きかった。

④入試では、学生の方が「平等」意識が高かった。社会の方では、「平等」意識が高いが、「男が優先」意識も高かった。

⑤職業では、学生の方が「平等」意識が高く、社会の方では、「男が優先」意識が非常に高く相違が大きかった。

⑥就職では、学生の方が「平等」意識が高く、社会の方では、「男が優先」意識が非常に高く相違が大きかった。

⑦アルバイトでは、学生の方が「平等」意識が高く、社会の方では、「平等」意識が高いが、「男が優先」意識も高かった。

⑧収入では、学生の方が「平等」意識が高く、社会の方では、「男が優先」意識が非常に高かった。

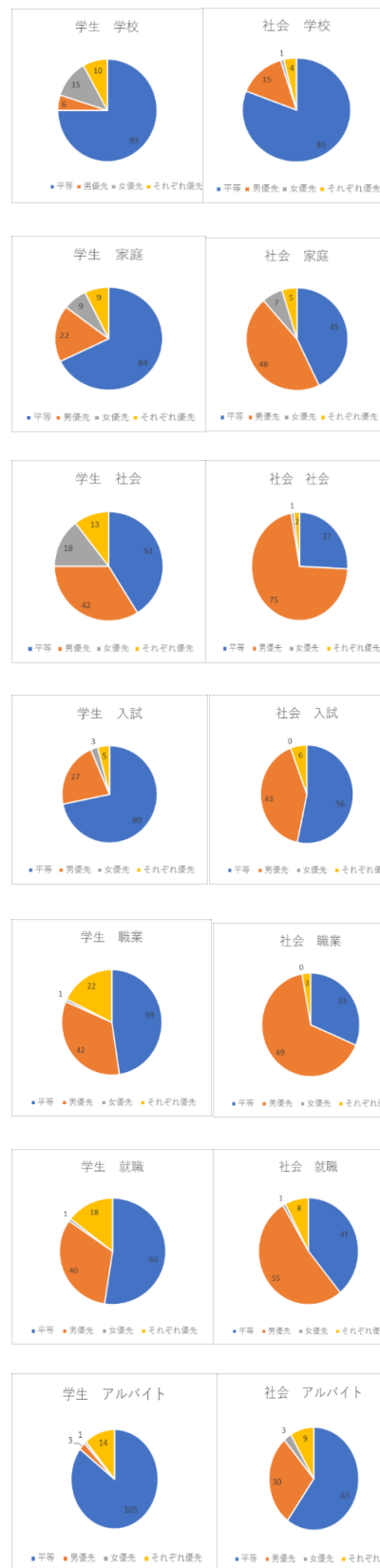
⑨政治では、学生の方も社会の方も「男が優先」意識が高いが、社会の方がさらに高かった。

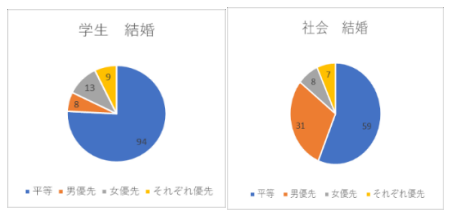
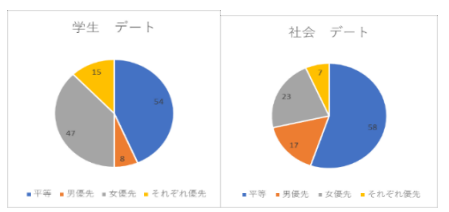
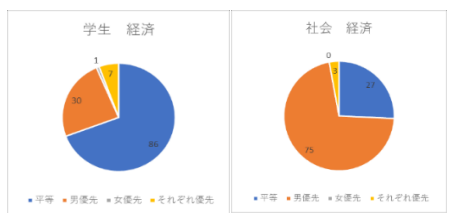
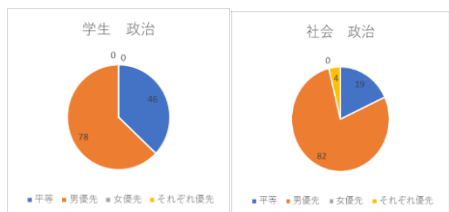
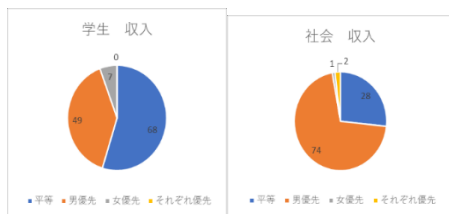
⑩経済では、学生の方が「平等」意識が高く、社会の方では、「男が優先」意識が高く相違が大きかった。

⑪デートでは、学生の方も社会の方でも「平等」意識が高いが、学生の方では「女が優先」意識も高かった。

⑫結婚では、学生の方も社会の方でも「平等」意識が高いが、社会の方では「男が優先」意識も高かった。

表3 学生と社会の男女平等意識の相違





## 6. まとめ

学生と社会の男女平等意識の相違をみると、学生は政治以外では平等意識が高いことがいえた。しかし、2018年現在の社会では、入試、アルバイト、デート、結婚では「平等」意識が高いが、家庭、社会、職業、就職、収入、政治、経済では「男が優先」意識が高いことがいえた。

社会よりも学生の方が平等意識が高いことから、時代とともに平等意識は伸びることになるのではないかと考える。しかし、学生の自由記述に、「親に女には優しくしなさいと教えられた」「女が家事をすることに決まっている」等がある。シモーヌ・ド・ボヴォワールがその『第二の性』のなかで、「人は女に生まれるのではない、女になるのだ」と書いているが、まだまだ日本では、「女になるように」「男になるように」育てられているようだ。あらゆる分野で男女が平等になるには時間がかかり必要と推測できる。しかし、学生は、社会での現状を把握することが必要である。令和になった今、少しでも前進していかなければならないと考える。

<sup>1</sup> 椿ますみ「短大生と大学生のジェンダー意識の違いと変化 ～性役割志向性調査に基づいて～」『名古屋女子大学紀要』65, 149～158, 2019

<sup>2</sup> 森 裕子・石丸 径一郎「女子大学生における性別に関する認知と判断 男女平等主義志向性と自己・他者の行動評価に着目して」『日本心理学会大会発表論文集 82(0), 3AM-122-3AM-122, 2018